

hesso

01

take
free

東北大学病院
広報誌「へっそ」



特集：新しい病院のカタチ

hesso(へっそ)は東北大学病院の広報誌です。人のカラダを中心に、いまの医療を中心に、地域の皆さまにわかりやすく当院の活動を紹介します。hessoを中心に人の輪ができる、まさに地域の「おへそ」のような存在を目指します。

表紙のひと



東北大学病院の 1年目初期臨床研修医

医師になるための第一歩を踏み出した5人。未来の医療を担うために日夜奮闘しています。初期研修は医師としての基盤を作り、将来の道を決めるとも大切な時期。患者さまと触れ、医師としての自覚が芽生え、知識も技術も心構えも育っていきます。そんな時間を共に過ごす仲間と、秋風と木漏れ日が心地よい、杜の都・仙台の定禅寺通りにて、へっそポーズ。

特集

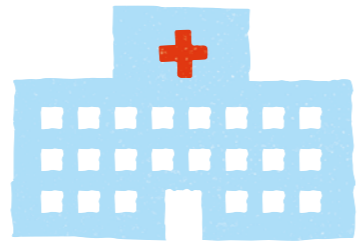
新しい病院のカタチ

東北大学病院の理念、それは「患者さまにやさしい医療と先進医療との調和を目指した病院」。安全かつ高度な医療を地域全体に提供するための仕組み作りが、今、始まっています。

仙台の地に東北大学病院の前身となる仙台湾医学学校施設所が創設されたのは、今から約200年前のこと。以来今日まで、日本の医学研究と医学教育を推進しながら、地域の健康を守り続けてきました。現在では1262の病床と57の診療科を備える東北随一の病院となり、一日あたり2000名以上が外来診療に訪れ、1000名以上が入院生活を送っています。

高度・先進医療で日本を代表する病院の一つである一方で、長年にわたり地域に根差した医療にも取り組み、その両立をはかってきた東北大学病院。医療を通じて社会に貢献する使命を果たすため、新しい試みを次々と打ち出しさらなる飛躍を目指しています。

東北大学病院



ICT(情報通信技術)でつながる

高度医療を提供する

主要国立大学でも最大規模の病床数・診療科を備え、各分野のエキスパート集団として難病や移植医療などに積極的に取り組んでいます。

創立 **1817年** 診療科 **57科** (医科44 歯科13)

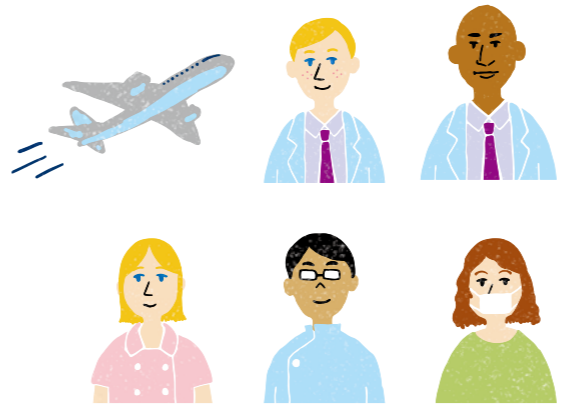
スタッフ

医師	看護職員	医療技術職員	その他の職員
736人	1254人	398人	517人

外来患者/日	病床
2368人	1262床
手術/年	分娩/年
8065件	1003件

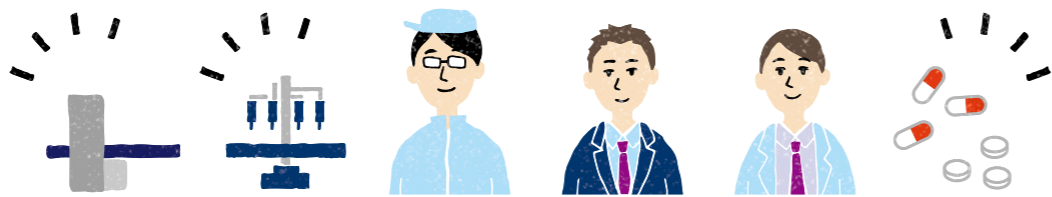
世界に飛躍する

国際的な医療ネットワークを積極的に形成し、ワールドクラスへの飛躍を目指します。



新しい医療を創る

日本における医療イノベーションの拠点として東北大学全学の研究者や企業などと連携して医療機器や新薬の開発支援を推進します。

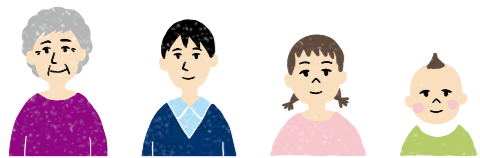
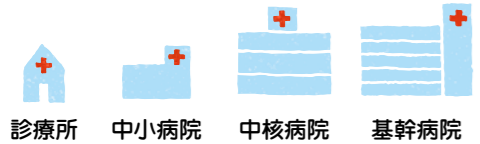


地域医療に貢献する

各地域への医師派遣体制を構築し、未来の医療を担う人材を育成します。被災地への多様な医療支援も行います。



連携している医療機関



データは2013年度(スタッフ数は2013年4月1日)のものです。

新しい5つの取り組み

一人ひとりの健康を守るため、そして世界の医療の未来を切り拓くために、東北大学病院が始めた5つのこと。



高度医療を提供する

高水準の医療技術を推進するため新中央診療棟を建設予定。内視鏡ロボット手術、ハイブリッド手術などを提供する手術室を17室備えます。明るく開放的で暖かみのある診療棟で機能性の高さ患者サービスの両立を目指します。



地域医療に貢献する

震災後顕在化した医師不足に対応するため、「地域医療復興センター」を創設。行政や関連病院、医師会と連携し、継続的に宮城県内で活躍する医療人の確保や多様な医療支援、医師育成の仕組みづくりに腰を据えて取り組んでいます。



最新情報技術を活用する

医療情報をスムーズに提供できるように電子カルテ化を進めています。また、行政や他医療機関などと連携してテレカンファレンスシステムを導入し、遠隔診療支援や医療教育に活用します。地域に居ながらにして専門医療を受けることができる医療体制を目指します。



新しい医療を創る

次世代を担う医療を開拓するため、健康に役立つシーズを学内外から広く集め、それらを育てて社会に還元する「臨床研究推進センター」を開設。医療機器や新規医薬品の開発など、最新の技術・知見をいち早く医療現場に届けることを使命としています。



世界に飛躍する

世界の主要な医療機関とネットワークを構築し、医療情報の共有や、手術の遠隔技術指導等が行えるよう準備を進めています。海外研修などを積極的に取り入れ国際的医療人を育成します。また、海外からの患者さまの受け入れ体制を整えます。



病院長に聞く

これからの大学病院のあり方

特定機能病院に求められるもの、それは、安全性が伴う高度医療を行うことだと思っています。東北大学病院ではインシデントレポートの共有や分析はもちろん、医療安全や感染対策などに関する研修の機会を多く設けています。スタッフ一人ひとりの意識は非常に高く、院内全体で、安全でやさしく、かつどんな疾患にも対応できる医療を提供しようという機運が高まっています。また、そのような人材をこの大学病院で育てていくことは、地域への優れた医療人の提供につながり、さらには地域全体に対して医療の質を保障することへとつながっています。

昨年、私は県の医療局と医師会の方々と一緒に、東日本大震災で被害に遭った沿岸部の病院を回り、現場や診療所で働いている方々と話をしました。そこで強く感じたのは、大学病院には、どんな状況にあっても質の高い医療をその地域に提供し続けられる仕組みを作る責任があるということ。これまでは、最後の砦

としての面が主でしたが、これからは、大学病院自体が積極的に地域医療に関心を持つことが必要になるでしょう。例えば、深刻な課題である医師の偏在を解消できるような仕組みを作ることその一つ。地域全体に十分な医療を提供できるよう、行政とも連携して現在準備を進めているところです。

また、最先端医療施設を整備することも東北大学病院の大きな使命。より充実した環境を整えるため、高度医療を集中させた新中央診療棟の建設計画が進行中です。さらに、アジアなど世界の主要な病院と連携して医療情報の共有や手術の技術指導を行う準備を整えたり、院内の臨床研究施設である「臨床研究推進センター」で企業と協同で医療機器や新薬の開発に取り組みなど、今後も将来に目を向けながら、患者さまがより安心して医療を受けられる未来型の病院づくりに力を入れていきたいと考えています。



下瀬川 徹（しもせがわ とおる）

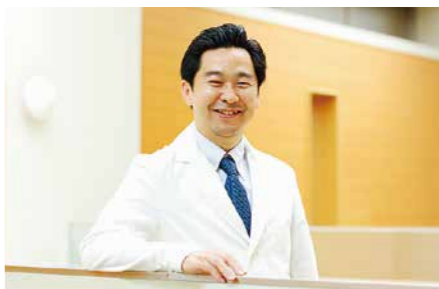
1953年（昭和28年）生まれ、青森県出身。1979年（昭和54年）東北大学医学部卒業、同附属病院第三内科入局。米国オクラホマ州立大学医学部、米国イリノイ州立大学医学部を経て、東北大学大学院医学系研究科教授に就任。2012年（平成24年）4月より現職。専門は消化器内科。

病院スタッフ、想いはひとつ。

患者さまやそのご家族、そして共に医療に取り組む仲間とのつながりを大切に、今日も仕事に励むスタッフたち。

病気と闘うプロの集団として。

中澤徹／眼科教授・医師



病院で働く全てのメンバーに求められているのは、患者さまと一体となったチーム医療。今後も眼科の専門医として技術を磨くと共に、適切な情報共有とコミュニケーションの精度を皆で向上していきたいです。

癒し支える存在を目指して。

門間典子／看護部臨床教授・部長



先進医療を担う病院の看護師として心がけているのは、患者さまへの最高の療養環境と看護ケアの提供。ひとにやさしく未来をみつめる看護師を育てるため、看護の質向上に向けた教育・研究に取り組んでいます。

研究の成果を患者さまのもとへ。

竹内雅史／理学療法士



私の仕事は、患者さまやスタッフから話を聞き、反応・現状を把握した上でポジティブフィードバックを与えること。他部門の学会やセミナーにも参加し、より質の高いサービスを提供する一助としています。

薬の専門家としてできること。

高田紀子／薬剤師



薬剤師もチーム医療の一翼を担う医療人として、医師や看護師と連携しながら、患者さま一人ひとりに適した薬物療法を提案しています。今後も「安全・安心かつ、最良の薬物治療」を提供し続けていきたいです。

笑顔で築く相手との信頼関係。

西川祐未／管理栄養士



一人ひとりに目を向けた、やさしさの伝わる栄養管理を実践すべく日々業務に取り組んでいます。これからも笑顔を大切に、様々な医療スタッフと連携しながら管理栄養士としてスキルアップを目指していきます。

より良い支援を行うために。

梅木諒／医療ソーシャルワーカー



患者さまやそのご家族、周りを支えるスタッフとの情報交換を大切にすることはもちろん、意思決定の際の材料にしていけるよう、制度や社会資源など提供できる情報の量を増やすことに日々励んでいます。

生き生きと働ける職場を提供。

小松山勝樹／総務課係長



職員一人ひとりがやりがいを持って働けるような人事制度の整備に努めています。生き生きと仕事することは、患者さまやそのご家族への良い対応、そして当院の基本理念の実現につながっていくはずですから。

安心して受診していただくために。

澤木翔子／患者前方支援事務員



不安を抱え病院を訪れる患者さまがスムーズに受診できるよう、紹介元医療機関と院内との連携を円滑にして予約をとることが私の務め。わからないことは、すぐに先輩や診療科に確認することを心がけています。

こんなコトもやっています。

当院をより深く理解していただき、市民の皆さまに安心してご来院いただけるよう、様々な問題改善やイベント開催などに取り組んでいます。このコーナーではその内容をいくつか紹介していきます。

より快適な病院を目指して。

皆さまの声の窓口



声の投書箱



サービス・質向上委員会

ご来院された皆さまからご意見やご感想をいただく場として、「ご意見窓口」や「声の投書箱」を設け、より快適な病院となるよう問題の改善に取り組んでいます。いただいたご意見は、委員会を開き、改善策を検討し対応しています。また、毎年、入院・外来の患者さまにアンケートにご協力いただき、「患者様満足度調査」を実施しています。結果は当院Webサイトでご確認いただけます。



医療についてわかりやすく解説。市民公開講座

医療と健康に関して、市民の方々に広く知っていただく場として、市民公開講座（参加費無料）を開催しています。お口の健康や糖尿病対策など、毎回テーマを設け、基礎知識から高度・先端医療の実際を当院の専門医がわかりやすく解説しています。また、ゲストによる講演や体験イベントなど、楽しみながら学べる場となっていますので、ぜひお気軽にご参加ください。



開かれた病院であるために。

病院見学会



年に一度、市民の方々を対象とした病院見学会を実施しています。ご案内しているのは、手術室や薬剤部、放射線部など、普段は見ることのできない施設です。参加いただいた皆さまからは、「先端医療設備に驚いた」「あらゆることに万全を期していることがわかった」などの感想をいただいています。

もっと世界に
もっと地域に
それがこれからの
東北大学病院です。



最先端、最新というと、無機質で全自動の何かといったイメージがあるかも知れませんが、わたしたち東北大学病院ももちろん、新しい医療機器・技術を導入していきますが、目指しているのは、安全で人にやさしく、あらゆる疾患に対応できること。わたしたちは、医師・看護師・薬剤師・事務職員など、あらゆる職種のエキスパートが互いに尊敬し合い、ひとつのチームとして、患者さまと視線を合わせて医療にあたっていきます。そのことを、病院を訪れる人、働く人全てが感じられるところ、わたしたちが考える、新しい病院の形です。

この新しい病院の形に、一歩ずつ近づけるように、高度医療の継続的な提供、未来を拓く医療の開発、地域医療への貢献に邁進していきます。



東北大学医療技術短期大学部を卒業後、2006年より当院看護部へ入職。西14階病棟（腎・高血圧・内分泌科、糖尿病代謝科）を経験後、現在は東8階病棟（肝・胆・脾外科、胃腸外科）に勤務。趣味は登山。今秋は蔵王、月山に挑戦予定。

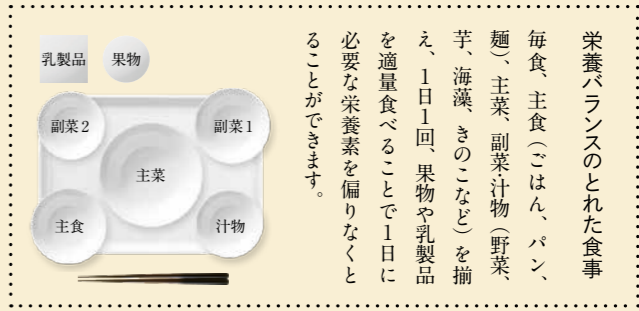
野菜を食べる

副菜レシピ



岡本智子 室長 監修

栄養とうまみが豊富に含まれる旬の素材を使った美味しい野菜の副菜レシピをご紹介します。あらかじめ料理の時間を短縮する下ごしらえをしておくことで、手軽に無理なく野菜を食べましょう。



冬の食材

「はくねこ」



はくさいは水溶性ビタミンなどが豊富です。ビタミンCは外側の色の濃い葉に特に多く含まれ、風邪の予防やストレスの軽減、疲労回復などに効果を発揮します。

便利な下ごしらえ術

軸（白い部分）と葉に切り分け、軸は繊維に沿って縦6cm×横2cmの短冊状（写真参照）、葉は軸の長さにそろえ4等分程度に切ります。まとめて密封のビニール袋などに入れ冷蔵保存します。使用する直前に水にさらすとシャキッとします。



和 はくさいの あさりあんかけ

水煮缶のあさりを使い、旨味と不足しがちな鉄分をプラス



レシピ（2人分）
フライパンにサラダ油を熱し、千切りのしょうが1/2かけ、生いたけ2枚を炒め、下ごしらえした白菜300gを軸、葉の順に強火で炒める。あさり水煮缶、合わせ調味料（しょうゆ、砂糖各大さじ1、塩1つまみ）とあさりの缶汁1/2缶を加えひと煮立ちさせ、水溶性片栗粉でとろみをつける。

洋 はくさいの クリーム煮

まいたけを加えボリューム感と食物繊維の摂取アップ



レシピ（2人分）
鍋に水200mlを入れ、下ごしらえした白菜200gと適当な房に分けたまいたけ40gを加え柔らかくなるまで加熱する。一旦火を止め、サラダ用のポイルえび60g、シチューの素30gを加え、シチューの素が溶けたら牛乳40mlを加え再び加熱し、塩こしょうで味を整える。

中 マーボーはくさい

味付けのバリエーションを増やしてたっぷり野菜を食べる！



レシピ（2人分）
ごま油でみじん切りにしたんにく、しょうが、豆板醤少々を炒め、豚挽き肉60g、合せ調味料*を加え火を通し皿にとる。ごま油で白菜200gを軸、葉の順に炒め、挽き肉、水で戻した緑豆春雨、鶏がらスープ120ccを加え煮立たせ火を止め、水溶性片栗粉でとろみをつけ再び加熱。仕上げにごま油を少々。

* 甜麺醤小さじ1、しょうゆ小さじ2/3、砂糖小さじ1、酒少々

大泉千賀子さん

看護師 東8階病棟（肝・胆・脾外科、胃腸外科）

わたしを前に進ませてくれる場所

患者さまの痛みや苦しみの声を受け止めて、どうしたら効果的な看護ができるのかを、一人ひとりの病状や治療の目標を見据えながら考えるように心がけています。

内科を経験して2年半が経った頃、手術後の急性期ケアを経験したいと思い、肝・胆・脾外科、胃腸外科を希望しました。外科では、目の前の症状への対処が優先されますが、安心して退院できるような支援も重要だと感じました。ストーマ（人工肛門）ケアや瘻摘出術後のインスリン注射導入など、退院に関わる看護師の役割が大きいと気づき、知識を高めて指導をしっかりと糖尿病療養指導士の資格を取得しました。患者さまだけでなく、看護師の指導にも取り組みました。以前に比べて、病棟に退院後の生活指導が徐々に浸透してきたと感じています。

東北大学病院の看護部は、病棟毎の専門性とプロ意識が高いので、どこに行っても何年経っても学ぶこと、学ぶべきことが尽きません。この環境で、常に学ぶ姿勢を持ち続けていきたいです。2013年4月にはAOBAナースに認定され、学生や新人職者を対象にセミナーを企画して講師にも挑戦しています。今後は、看護研究として論文発表することも目標にしています。

*AOBAナース／文部科学省における大学教育改革の支援事業の一環として当院看護部が独自に開発したプログラムを受講し「教育力」と「実践力」を身につけた看護師のこと。

Vol.01

県立宮城病院旧正門

国道48号線の大学病院前のバス停そば、七十七銀行の支店の向かいあたりに、やや所在無げに、とはいえ風格を保って佇む門。大学の関係者が旧正門と呼ぶ門のもととは、明治44年（1911年）に県立宮城病院の正門として建てられたもの。

100年以上の伝統を伝える流石の風格、と言っても、実は、戦時中に鉄を供出してなくなった門扉は平成2年の再建時のものだし、赤煉瓦もその時に創建当時の手法を用いて焼きなおされたもの。昔を今に忠実に伝えているのはその姿形だけで、実はキャンパス内の工事や道路の拡幅などに伴い場所も移されています。オリジナルの場所は、北四番丁と木町通りの角で、向きもほぼ南東を向いていて、現在の真南を向くとは違うとのこと。

県立宮城病院が東北帝国大学に衣替えるのが門をはじめとする建物の竣工の翌年。当時から変わらず残るものは何もなく、時代に応じて変わりが、病院として人の命を健康を預かるという使命の核だけが変わることなく、とあって、再度、門を見ると、柱になる花崗岩だけは往時のまま。時代の変遷に気づいて、芯だけは変わることなく、というのは病院のあるべき姿そのままに？

*本稿執筆にあたって、「復元された病院の旧正門」櫻井實（良陵同窓会120年史、1989）、「大学病院の旧正門について」玉手英典（良陵新聞第89号、1976）を参考にしました。



院内リノベ室

● 近隣の提携駐車場もご利用ください

「いつも満車で車が停められない。」そんな駐車場不足を少しでも解消する為、近隣に「外来患者専用駐車場」を新設しました。ぜひご利用ください。外来の患者さまは最大8時間まで無料です。

ダイヤパーク	タイムズ		
1 MA仙台ビル駐車場 徒歩6分（約350m）	2 タイムズ木町通第6 徒歩6分（約350m）	4 タイムズ木町通第5 徒歩7分（約400m）	6 タイムズ二日町第8 徒歩6分（約350m）
7 ダイヤパーク二日町 徒歩8分（約500m）	3 タイムズ木町通第4 徒歩6分（約350m）	5 タイムズ木町通第3 徒歩8分（約450m）	



入院患者さま、お見舞いの方は8時間無料の対象外です。当院の専用駐車場ではありませんので、満車時は利用できない場合があります。ご了承ください。駐車場内でのトラブルについて、責任を負いません。

● お薬の服用には、 自動販売機で 無料のお水をどうぞ

「お手洗いのお水では飲みたくないなあ、でも、わざわざお水を買うのも・・・。」
外出先でのお薬の服用は意外と大変なもの。患者さまのご要望にお応えして、無料のお水をご用意しました。ちょうどいい量で、飲みやすい紙カップ式。当院内でお薬を服用される際には、カップ式自動販売機にある「冷水」ボタンをポチッと押してくださいね。



設置場所：
外来診療棟 A1 階「自動販売機コーナー」1台
飲食コーナー内 1台
七十七銀行 ATM（病棟側）隣 1台

information

世界糖尿病デー

毎年11月14日は世界糖尿病デーです。発症予防、早期治療など糖尿病に対する正しい知識の啓発を推進するため、糖尿病デーイベントが開催されます。この機会に糖尿病について考えてみませんか？

【イベント開催情報】
日時／2013年11月10日（日）
場所／仙台クリスロード商店街「仙台緑日」、イオンモール石巻店
内容／血糖値測定、歯周病予防のコツ、健康相談など ※参加費無料



健康講座を開催しました

禁煙推進活動の一環として、8月23日に喫煙対策委員会による「健康講座」を開催しました。3回目となる今回は、当院心臓血管外科の秋山講師が、タバコが体に与える害や、タバコが原因で起こる循環器疾患について解説。ホスピタルモールを会場に、禁煙に関心の高い患者さまやそのご家族など約30名の方が参加されました。※今後の開催については院内掲示でご確認ください。



地域医療連携新聞

適切な医療を迅速に提供する
ため、かかりつけ医とのコミュ
ニケーションを大切にしてい
ます。地域の医療機関に向け
て、当院の活動を紹介します。

第10回 国立大学医療連携・

退院支援関連部門連絡協議会を開催しました



講演会

7月19～20日、仙台国際センターにて第10回国立大学医療連携・退院支援関連部門連絡協議会を開催しました。この協議会は国立大学病院間におけるネットワークの構築により、業務の改善、向上、効率化を図ることを目的とし、年に一度、幹事を担当する大学の所在地で開催されています。記念すべき第10回目の今回は本学が当番校となり、全国42の国立大学から、医師、看護師、MSW、事務、心理士、薬剤師など225名の参加がありました。基調講演では、文部科学省の竹本



グループワーキング

浩伸係長が大病院をめぐる諸課題について、石巻市立病院の伊勢秀雄病院長、当院総合地域医療教育支援部の石井正部長が災害時の医療連携の実際や東日本大震災への対応について講演しました。実体験を基にした内容に参加者も真剣に耳を傾けている様子でした。2日目には職種ごとの分科会も行われ、日ごろの業務に関する情報交換をすることができました。また、ポスタープレゼンテーションでは、第10回目の開催に合わせて「10年の歩み」をテーマとし、各大学が発表をしました。

第9回東北大学病院地域医療連携協議会のご案内

平成25年度の開催についてお知らせします。
日時：平成26年2月4日（火）午後7時～
場所：勝山館（仙台市青葉区上杉2丁目1-50）

「予約申込みのご案内」を発行しました

平成25年11月に診療予約申込書の様式を変更しました。当院のホームページからダウンロードが可能です。
URL <http://www.hosp.tohoku.ac.jp/>

院内の身近な疑問を、ずばっと解決

QさんとAさん

Qさん 「一般用エレベーター」と「医療用エレベーター」がありますが、どう違うのでしょうか？お見舞いの際はどちらに乗ればいいですか？

Aさん ..当院の「医療用エレベーター」は、患者さまの搬送（ベッド・車いす）や医師・看護師・医療技師の移動用です。歩行可能な患者さまや、お見舞いの方は「一般用エレベーター」をご利用ください。

ご意見募集

nessoへのご意見、ご感想を募集しております。住所、氏名、年齢、性別、ご意見をご記入の上、左記E-mailアドレスまでお送りください。抽選でオリジナルノベルティをプレゼントいたします。
pr@hosp.tohoku.ac.jp



編集後記

「nesso」いかがでしたでしょうか？当院の伝統ある理念や新しい取り組みを、病院長はじめスタッフの想いを乗せてお届けしようとお考えしました。街はすっかり冬支度の頃、ふと開けば気持ち温かくなる、そんな存在としてこれからお付き合い頂けると嬉しいです。（広報室）